

日本映画放送株式会社 第64番組審議会議事録

1. 開催年月日：平成30年7月17日（火）15時～16時
2. 開催場所：東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席：委員総数 8名 / 出席委員数 7名
出席委員（順不同、敬称略）：菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・曾根 和子・
田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正
欠席委員（敬称略）：砂川 浩慶
放送事業者側出席者：代表取締役社長 杉田 成道
常務取締役 佐藤 信彦
執行役員編成制作局長 宮川 朋之
編成制作部長 小川 英洋
編成制作部 塚田 洋子
編成制作部 三宅 歩
番審担当 堤 靖芳
清水 明（記）

4. 議題（1）審議事項

時代劇専門チャンネル オリジナル時代劇「雨の首ふり坂」について

（2）報告事項

日本映画専門チャンネル 「ストリッパー物語」関連番組・編成について

5. 議題（1）概要

時代劇専門チャンネル開局20周年記念オリジナル時代劇として、時代小説の大家・池波正太郎が自作の短編小説『雨の杖つき坂』を書き改めた股旅物の傑作戯曲『雨の首ふり坂』を、中村梅雀ほか豪華キャストで初映像化した。渋谷の映画館で1週間上映し、共同制作のJ:COMでは1月にテレビ初放送。時代劇専門チャンネルでは7月21日に初放送した。

【審議ポイント】

- 池波作品の新しい魅力を提示し、オリジナル時代劇に関心を引きつける作品になったか。
- 独自の世界観で多くの音楽ファンを魅了するEGO-WRAPPIN'を起用するなど、新しい時代劇の演出を目指したが、視聴層の拡大に繋がっているか。
- 7月1日“テレビ時代劇の日”に、本作キャスト・監督が出演した生放送特番を日本映画専門チャンネル、時代劇専門チャンネル、スカパー！無料チャンネルで放送した。こうした取り組みが、契約視聴者以外の人々に時代劇の魅力を広める契機となったか。

6. 議題(1)審議内容

- ・暗めのトーンで貫かれた映像が作品の雰囲気をつくっていた。やくざ者が真っ当な市井の人として生きる難しさがテーマとして貫かれ、見応えがある。ただ、主演の中村梅雀と若い頃を演じた俳優が似ていない。また、悪人が善人になる説明がほしかった。
- ・大変楽しく見た。企画もキャスティングも脚本も演出も良い。音楽のミスマッチも楽しめた。殺陣もしっかりしていて、一流の時代劇だと思った。しかし、人情の機微、生き様、渡世の掟、といった物語の縦糸はしっかりしていても、それだけではドラマは物足りない。韓流時代劇を見ると、時代考証は滅茶苦茶だし全部絵空事だが、豪華な衣装や料理が魅力的な横糸となっている。横糸を使って若い人や女性にもアピールしてほしい。
- ・私たち世代には時代劇は身近だが、若い視聴層は違う。また、時代劇制作は一種の伝統芸能で、ノウハウや決まり事を若い作り手に伝承するのも大切だ。そうした意味で本作は、時代劇に未来はあるか？ という問いそのもの。今後もこうした挑戦を続けてほしい。本作は京都松竹で制作しているだけあって諸々ぬかりはなく、特に原田哲男の美術が素晴らしい。出演陣も皆魅力的で、特に小市慢太郎はこれまでで最も良かった。
- ・主人公の若き日を演じる馬場徹がイケメンで驚いた。中年女性は食いついただろう。相棒の半蔵を演じた金井勇太も好感が持てた。2人揃うと絵になる。音楽は日本語歌詞が耳について気になってしまった。関連特番を見たが、殺陣師の話が興味深かった。
- ・これまで映像化された池波作品とはかなり違う印象で、今の時代劇にしては暗い色調が良かった。主演の中村梅雀は笑顔でうどん屋を手伝シーンの方がしっくりきた。
- ・EGO-WRAPPIN'の音楽は最初違和感があったが、最後には慣れていた。片や「鬼平犯科帳」のジプシーキングスは今でも新鮮。あのくらいアンマッチなものをぶつけて初めて印象に残る。時代劇は実は女性視聴者に引っ張られているところもある。視聴者層の幅を広げたいなら、主演俳優を若返らせるのがいいのではないか。
- ・私も面白く見た。普通の時代劇はラストが想像できるが、本作は最後まで予想がつかずハラハラした。時代劇の多くはシリーズ物が多いが、長いシリーズを最初から見なければ話についていけないか？と躊躇するかもしれない。本作は、そうした意味で見やすかった。今後も敢えて1つ1つ作品を独立させても良いかもしれない。
- ・因果応報のスタイリッシュ・フィルムノワール時代劇。善玉も悪玉もなく、全てをドライに描いていて新鮮だ。対決するうちに親子だと気づき、それで親が子に殺させる、というのが時代劇における親子対決のパターンで、そこが普通泣かせどころだが、本作は互いに親子だと気付かず、視聴者だけが関係を知っている設定。いかにもアウトローっぽくて良かった。キャスティングはむさ苦しい男ばかりだが渋い。撮影後に急死した大杉漣の修羅を旅してきた男の鬼気迫る感じが印象深い。

各委員からの発言に対して、当社からの説明・回答は以下の通りであった。

- ・短編小説『雨の杖つき坂』では、源七と刺客の万次郎が親子だと明かされている一方、戯曲『雨の首ふり坂』では互いに親子関係を知らないまま。映像化するに当たり、戯曲

の解釈の方が深みが増すと考えた。音楽については河毛監督からジャズと歌謡曲のミックスが人気の EGO-WRAPPIN' を提案された。

- ・キャストは、既存メインターゲットであるシニア男性視聴者の支持が厚い中村梅雀にお願いした。演出的にはオリジナル時代劇の幅を広げたいと考えた。シニアと若年層の両方を満足させる難しさを実感している。今後も現在見ていただいているお客様を大切にしながら、新しいお客様を惹き付ける努力をしていきたい。
- ・股旅物は消えかけているジャンルだが、時代劇の可能性を探るためにチャレンジした。今後も新しい挑戦を継続していく。時代劇にはまず役者、スターが必要で、これまでベテランをキャストしてきたが、人選が一回りした今、将来を見据えて変化も考えている。近い将来若い俳優を主軸にした作品にも着手していきたい。

7. 議題（2）報告事項

【日本映画専門チャンネル「ストリッパー物語」関連番組・編成について】

6月11日に、ニッポン放送50周年、日本映画専門チャンネル20周年、の企画として、つかこうへい原作、弊社代表の杉田成道が演出するラジオドラマ「ストリッパー物語」をニッポン放送でオンエアした。その連動企画として、弊社では特別オリジナル・ドキュメンタリー番組「ストリップ劇場物語」を製作し、6月12日から放送した。また、日本映画専門チャンネルでは7～8月に「生誕70周年 つかこうへい映画まつり」と題し、つかこうへい原作の映画7本を放送している。

8. 連絡事項

次回番組審議委員会は、平成30年9月25日(火)15時より開催。